

《 基本計画編》

1 はじめに

1 公共サイン基本計画策定の背景

サインは、街中に立ち並ぶお店の看板や広告塔、壁に貼り付けてあるチラシや赤提灯といった様々なものが含まれ、いずれも私たちの生活の中で、身近な情報伝達手段として重要な役割を果たしている。またサインは、すべての人にとって利用しやすい街にしていくために欠くことのできない都市基盤施設の一つであり、今後、社会の国際化、高齢化等が進行する中で、その重要性がますます高まることになる。

サインは、個々の影響は小さいが、連続的に配置されることにより、街をイメージづける上で大きな影響があり、街並み景観を形成する上でも重要な要素となっている。戸田市では、平成 10 年度に戸田市都市マスタープランの中で景観形成方針が位置づけられて以降、積極的に景観行政に取り組んでおり、景観を構成する重要な一要素であるサインについても、今後、十分な配慮が必要となる。

このような中、平成 16 年に我が国で初めての景観についての総合的な法律である景観法が制定された。これに伴い、自治体独自の景観行政が展開できる下地が法制度面から整備されるとともに、関連する法律の整備の中で、屋外広告物法については、その実効性を高めるため、市町村の役割を強化し、自治体の裁量の範囲を拡げられることになっている。

このような流れを踏まえ、戸田市においては、これまでの戸田市独自の景観行政の取り組みを踏まえつつ、サインの中でも駅周辺案内図や公共施設案内板、住居表示といった公共サインに焦点をあて、公共サインの指針を示すことにより、景観形成に寄与しながら、だれにでも使いやすい街となるようサイン環境の充実に向けた取り組みを行うとともに、将来的には戸田市のサイン全般の環境整備につながるよう、公共サイン基本計画の策定に取り組む。

? 公共サインとは

戸田市では、各施設の名称看板や、市全域の案内地図、施設までの案内板といった、まちの情報をわかりやすく伝える看板などのことを公共サインと呼ぶことにする。



コンパルの名称サイン



五差路通りの名称サイン



戸田市案内図



市役所・文化会館への誘導



健康福祉の杜への誘導



住居表示サイン

2 公共サインの対象範囲

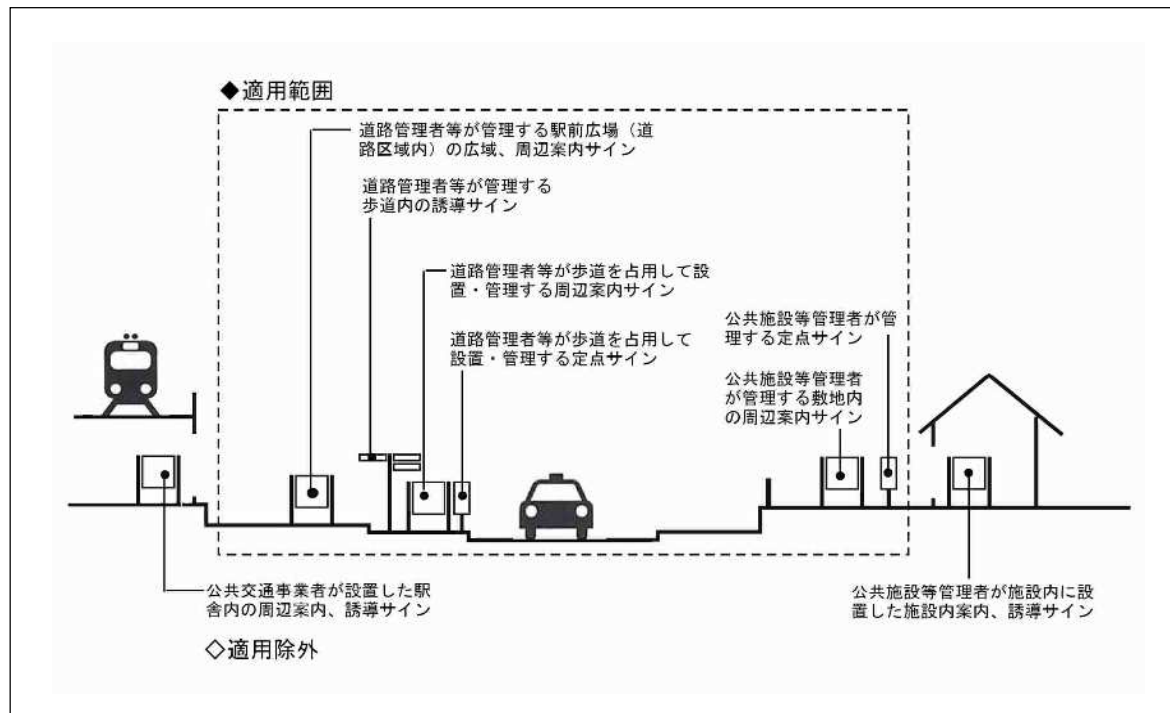
本計画は、公共施設等として設置・管理される案内・誘導・定点・その他サインを適用範囲とする。

ただし、道路標識のような法令等に定めがある場合や、駅施設内サインのように、一つのまとまりとして独自のサインシステムを用いた方が効果的と思われる一部の案内・誘導・定点・その他サインについて適用範囲から除外する。

（適用の除外）

- ・公共交通事業者が、交通旅客施設内に設置するサイン
- ・道路管理者が設置する道路標識設置基準に規定された標識
- ・公共施設等の管理者が施設内のみの案内、誘導を目的に設置するサイン

図 公共サインの対象範囲



3 公共サインの種類

本計画で取り扱う公共サインの種類は、以下に示すとおり、5つに分類される。

表 公共サインの種類

種 類	内 容	例
A. 定点サイン	施設名称サイン	市役所、文化会館、市営住宅、小中学校、保育園、公園、河川、橋 等
	通り名称サイン	市内23路線
	行政界表示サイン	戸田市
	地点名称サイン	信号機に添架されている地点サイン 等
	避難場所・避難所名称サイン	小中学校 等
B. 誘導サイン	施設誘導サイン	市役所、文化会館、福祉系施設、公園 等
	避難場所・避難所誘導サイン	小中学校、公園 等
C. 案内サイン	全市総合案内サイン	戸田市案内図 等
	地区案内サイン	各町に設置されている街区案内図 等
	駅周辺案内サイン	戸田公園駅周辺案内図 等
	ルート案内サイン	地域資源案内図 等
D. 規制・説明・啓発サイン	規制サイン	保育園あり注意！、学童横断注意！ 自転車放置禁止区域 等
	説明・啓発サイン	戸田市民憲章、指定文化財説明板、生活簡素化運動 等
E. 地域サービス系サイン	町丁目名サイン	住居表示 等
	町会掲示板	各町会に設置されているもの
	ゴミ集積所用看板	ゴミ集積所に設置されている収集日等を記載したもの
	コミュニティバス停	東循環、西循環、美笹循環

2 公共サイン基本計画のテーマ

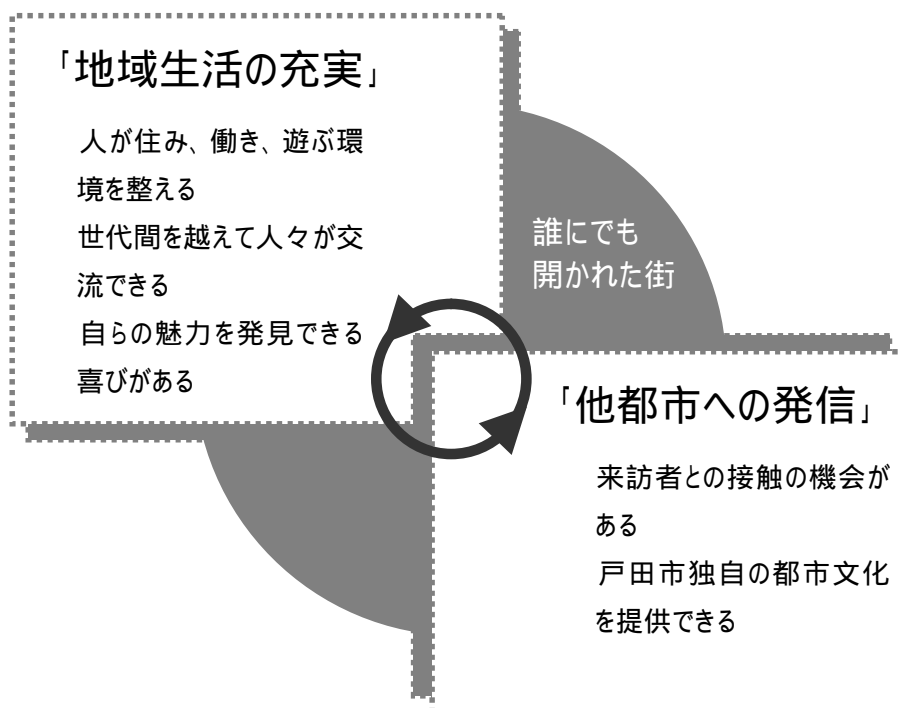
1 公共サインのテーマ

「まちづくり」から「まちづかい」へ - コミュニティ・サイン -

戸田市は、不特定多数の人が多く訪れる大都市でも、観光都市でもなく、近年急速に市街化の進んだ住宅・産業都市である。

このような新しい住宅・産業都市＝戸田市の街の将来像を見たとき、これからの戸田市には、人が住み、働き、遊ぶという生活行動が比較的高い密度で重なり合い、世代間を越えて人々が交流し、誰にでも開かれ、かつ自らの魅力を発見する喜びも合わせ持つことが、街に求められるようになる。そして、こうした過程を通じて、戸田市独自の他の街とは違った都市文化を培っていくためには、その主役として市民・まちの利用者の力が不可欠となる。

20 世紀後半のまちづくりが一定の成果をあげ、新たに「まちづくり(まちをつくる)」から「まちづかい(まちを使う)」への転換が求められる時代となっている。戸田市における公共サインの取り組みは、誰にでも開かれた街＝ユニバーサルデザインの視点を基本としながら、「地域生活の充実」「他都市への発信」をキーワードにもつ「まちづくりからまちづかいへ」をテーマとして展開していく。



2 公共サインの基本目標・基本方針

戸田市における公共サインのテーマ「コミュニティ・サイン まちづくりからまちづかいへ」を実現化するためのキーワードである「地域生活の充実」「他都市への発信」の2つに沿って、公共サインの基本目標・基本方針を以下に整理する。

〔地域生活の充実〕

人が住み、働き、遊ぶ環境を整える	基本目標1	生活しやすい環境を提供する
世代間を越えて人々が交流できる	基本目標2	まちへの愛着を育む
自らの魅力を発見できる喜びがある	基本目標3	まちなかを歩いて楽しむ暮らし方を提案する
	基本目標4	新旧住民による新しい地域コミュニティをつくり出す

基本目標 1 生活しやすい環境を提供する

戸田市は、S60以降、急速に都市化が進行した街であり、部分的に基盤整備が追いついていない箇所も見られる。公共サインについても、一部には規格を統一し、良質な市街地形成に貢献しているものもみられるが、応急処置的に設置されているものも多く、体系的に整備されていないこと、メンテナンスが不十分であること、街並みへの貢献の視点が不足していること等、都市基盤として不十分な点も見られる。このため、ユニバーサルデザインに十分に配慮しながら、生活しやすい場を提供するための基盤施設の一つとして、公共サインの環境整備に取り組む。

基本方針 1

公共サイン環境を整える

基本目標 2 まちへの愛着を育む

戸田市は、S60以降、人口が1.4倍に急増しているものの、戸田市への居住年数が短い世帯も多く居住する。また今後、北戸田駅周辺と戸田駅周辺の「新曽第一土地区画整理事業、及び新曽第二土地区画整理事業」区域における市街化の進行と、それに伴う新住民の増加も予想される。これら新住民の定住化を図るためには、基盤整備とともに、急速な都市化により希薄になる可能性がある戸田市のアイデンティティを新たに形成していくことが重要であり、まちへの愛着を育む仕掛けの一つとして、公共サインの環境整備に取り組む。

基本方針 2

新しい景観をつくり出す
今ある景観になじませる

基本目標 3 まちなかを歩いて楽しむ暮らし方を提案する

戸田市には、たくさんの魅力的な地域資源が点在しているが、それらを十分に生かしきれていない状況にある。このため、地域資源を利用者にとって利用しやすく、また生活に溶け込みやすいものにしていくため、地域資源を取り込んだ散策ルートづくりや情報発信のための手段として、公共サインの環境整備に取り組む。

基本方針 3

地域資源を取り込む

基本目標 4 新旧住民による新しい地域コミュニティをつくり出す

戸田市において、定住化を推進していく上での今後の大きな課題として、新しい地域コミュニティの形成がある。戸田市の市街化は、旧市街地の中に新市街地が形成されるものもあり、新住民と長年住んできた住民が良質な地域コミュニティを形成していくことが、質の高い街、ずっと住みたいと思える街をつくっていくための大きな条件になる。このため、新旧住民による新しい地域コミュニティをつくり出すきっかけとして、公共サインの環境整備に取り組む。

基本方針 4

市民主体の都市文化を育てる

〔他都市への発信〕

来訪者との接触の機会がある

戸田市独自の都市文化を提供できる



基本目標5

都市間競争も視野に入れ、新しい生活文化を創り出す（街への付加価値づけ）
街の売り込み

基本目標6

基本目標 5 都市間競争も視野に入れ、新しい生活文化を創り出す（街への付加価値づけ）

基本方針 5

街を記号化する

戸田市は、18.17km²と小さな街であり、JR 埼京線や外郭環状道路の開通、首都高速道の延伸により、利便性が非常に高い一方で、さいたま市、朝霞市、蕨市、川口市、和光市、東京都板橋区に隣接しており、都市間競争の非常に高い街でもある。このような立地特性を踏まえ、誰にでもわかりやすい街の提供と戸田市独自の生活文化の創造を合わせた取り組みを行うことにより、都市間競争を視野に入れた公共サインの環境整備に取り組む。

基本目標 6 街を売り込む


基本方針 6

街をデザイン化する

戸田市は、多くの地域資源を積極的に活用、アピールする取り組みや、交流人口（通過交通）の多さをメリットとして生かす取り組み等が十分に行われていない。このため、もっと積極的に街を売り込む手段として、街全体をトータルでデザインするという視点から、公共サインの環境整備に取り組む。

《公共サインの基本目標・基本方針の実現化のための手法例》

キーワード	基本目標	基本方針	手法例	
			公共サイン全般に関わるもの	一部の公共サインに関わるもの
地域生活の充実	1 生活しやすい環境を提供する	1 公共サイン環境を整える	定期的なメンテナンス 認識しやすいデザイン ●	不足する案内・誘導サインの補充 日常生活と密着した公共サインのデザイン化 《例》 ゴミ集積所用看板
	2 まちへの愛着を育む	2 新しい景観をつくりだす 今ある景観になじませる	共通コンセプトのデザイン ● ● 	地域文化を取り入れた公共サインの創造 《例》 地域文化に根ざした「オブジェ・サイン」を設置 ● (事例写真) 
	3 まちなかを歩いて楽しむ暮らし方を提案する	3 地域資源を取り込む	(事例写真) ● 	近所にある地域資源を結ぶ散策ルートづくり 《例》 街路樹、水辺、公園、寺社等を近所の散策ルートとして提供 + 地域資源情報を発信
	4 新旧住民による新しい地域コミュニティをつくり出す	4 市民主体の都市文化を育てる	利用者の参画による公共サインの整備 《例》 自治会単位での参画による公共サインの整備	地域コミュニティ施設の利便性の強化 《例》 町会掲示板に、町会会館位置図を設置

キーワード	基本目標	基本方針	手法例	
			公共サイン全般に関わるもの	一部の公共サインに関わるもの
他都市への発信	5 都市間競争も視野に入れ、新しい生活文化を創り出す(街への付加価値づけ)	5 街を記号化する		<p>現在地を示す「街角サイン」の整備</p> <p>(例) 地区別のアクセントカラーを用い、高齢者や外国人にも現在地を判別しやすく、また防災・防犯の面からも機能するサインを設置</p> 
	6 街を売り込む	6 街をデザイン化する		<p>積極的にアピールすべき施設である、戸田公園駅～戸田公園における案内・誘導サインの整備</p> <p>(例) 施設導入部に施設イメージを喚起させる案内・誘導サインを設置</p> <p>戸田を印象付ける仕掛けとして公共サインを活用</p> <p>(例) 市境に「時計サイン」を設置し、時計が見えたら戸田市に入ったことを記憶づける</p>  <p>(事例写真)</p>

3 公共サイン配置の基本的考え方

1 公共サイン配置の体系

戸田市の市内移動の特性には2つある。

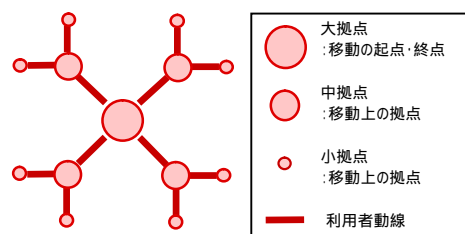
一つは行動起点が特定しにくいこと。例えば、市内アクセスの大部分が駅を経由することに代表されるような行動パターンを持っていない。利用者の目的地と交通手段に応じて、市内各駅(戸田公園駅、戸田駅、北戸田駅)、幹線道路(新大宮バイパス、北大通り、国道17号線)、自宅、と複数の行動起点と終点をもつ。

もう一つは、街区割りに規則性が見られないこと。補助幹線道路といった補助軸が弱いとともに、街区に規則性がないため、現在地を認識しづらい。

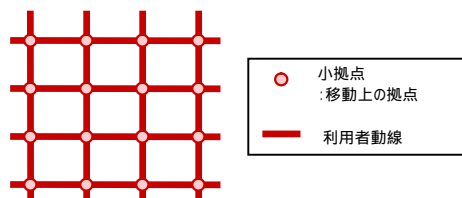
この2つの特性から、行動の起点を特定、終点を不特定とするクモノス状の配置(階層配置)^{*1}は向いておらず、行動の起点・終点ともに不特定とするアミノメ状の配置(投網配置)^{*2}が適していると考えられるとともに、将来的には、基盤整備とあわせたイト状の配置(線條配置)^{*3}が求められる。

以上から、戸田市の公共サインの取り組み方針として、小拠点を網の目状に配置したアミノメ状の配置(投網配置)^{*2}と、行動の起点・終点とも特定し線上に結んだイト状の配置(線條配置)^{*3}を組み合わせ、公共サインの体系化に取り組む。

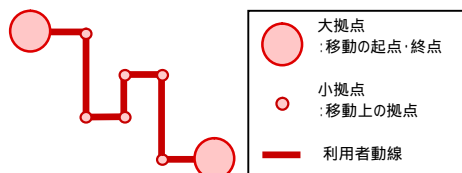
^{*1} クモノス状の配置(階層配置)
行動の起点を特定、終点は不特定



^{*2} アミノメ状の配置(投網配置)
行動の起点、終点とも不特定

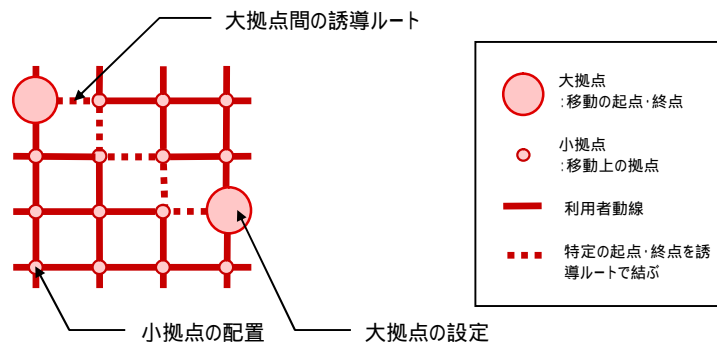


^{*3} イト状の配置(線條配置)
行動の起点・終点とも特定

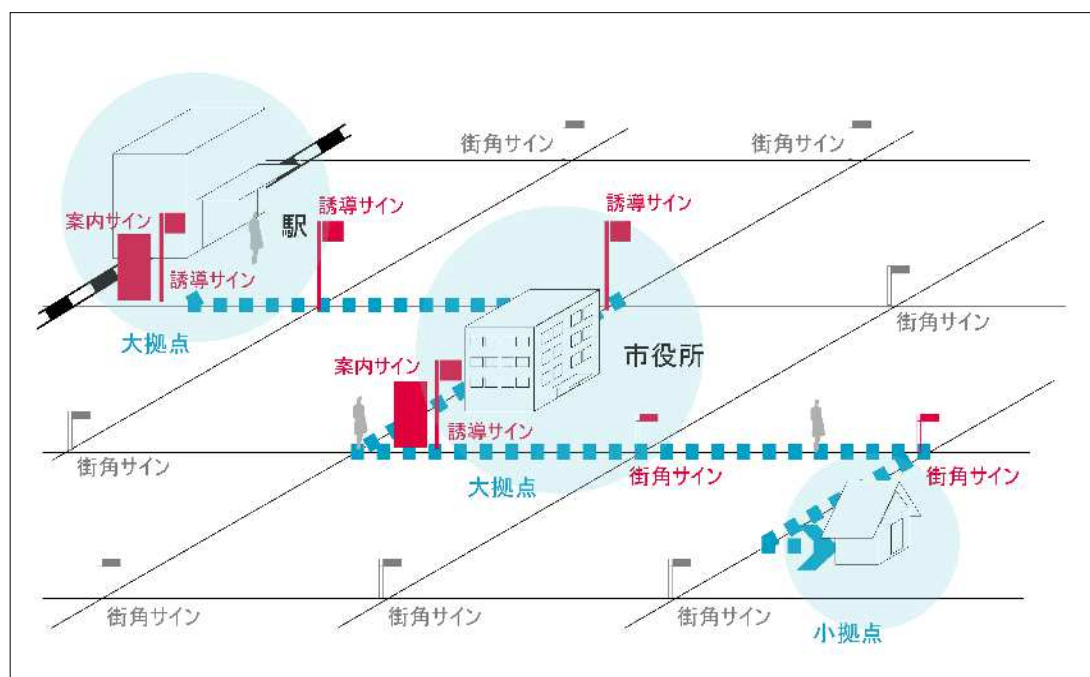


アミノメ状の配置(投網配置)^{*2}+イト状の配置(線條配置)^{*3}

戸田市では、複数の起点・終点に対応できるよう、小拠点を網の目状に配置(投網配置)し、その上に、新たに設定する大拠点と、大拠点間の誘導ルートを配置(線條配置)する。



(戸田市における公共サイン配置のイメージ図)

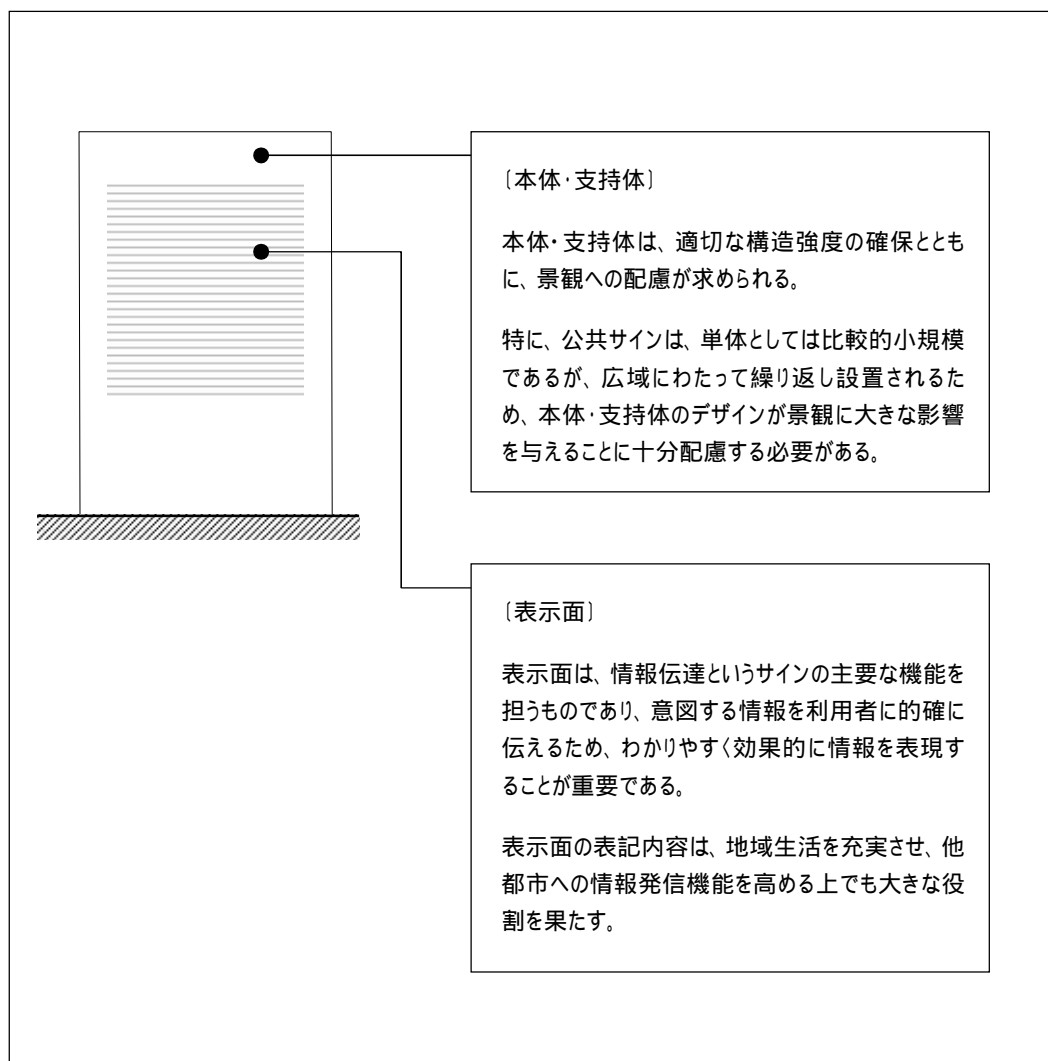


4 公共サインデザインの基本的考え方

1 公共サインデザインを構成する要素

一般に公共サインは情報を掲載する部分と、それを構造的に支える部分とに分けることができる。ここでは、前者を「表示面」、後者を「本体・支持体」と呼ぶ。公共サインのデザインの基本的考え方においても、「表示面」と「本体・支持体」に分けて、標準デザイン及びデザインの基準を設定する。(詳細は、《基準編》を参照。)

(公共サインデザインを構成する要素)

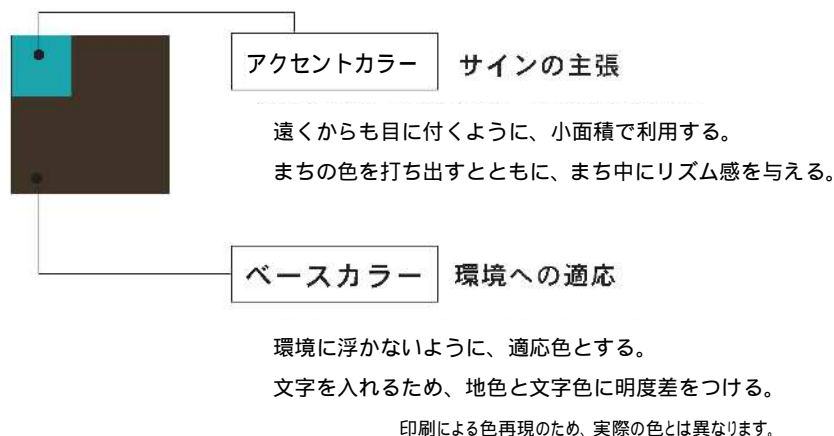


2 公共サインのカラーコンセプト

カラーコンセプト

公共サインは、「サインの主張」と「環境への適応」のバランスが重要であり、サインカラーは、「ベースカラー」と「アクセントカラー」の2要素から構成する。

ベースカラーは、戸田のまちなみの基調色(低彩度色の暖色系色相 R、YR、Y)に配慮したものとし、アクセントカラーにより、まち中にリズム感を生み出すものとする。



ベースカラー、アクセントカラーのバリエーション

アクセントカラーは、公共サインを目に付きやすいものにするとともに、まち中にリズム感を出す役割を持つ。考え方としては、以下の2つのバリエーションが考えられる。

A 公共サインのためのカラーとして戸田市全域をシンプルにアピールしていく方法

(色は例示のもの)

(ベースカラー) 10YR2/1
(アクセントカラー) 10BG6/8

印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。

(特徴)

戸田市の色を印象づけ、まち並みに統一感をもたせることができる

B 地区ごとにアクセントカラーを設定し、5地区を明確にしていく方法

(色は例示のもの)

新曽地区	上戸田地区	美女木地区	笹目地区	下戸田地区
(ベースカラー) 10YR2/1 (アクセントカラー) 10BG6/8	(ベースカラー) 10YR2/1 (アクセントカラー) 2.5RP6/12	(ベースカラー) 10YR2/1 (アクセントカラー) 5YR7/14	(ベースカラー) 10YR2/1 (アクセントカラー) 5P6/8	(ベースカラー) 10YR2/1 (アクセントカラー) 5GY7/10

印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。

(特徴)

外国人等の来訪者は、住所と色を結びつけることにより、現在地を認識しやすい

災害時には、色識別の活用により、高齢者や外国人を含む不特定多数の利用者の誘導等が可能になる

3 公共サインのデザイン

ハーモナイズドマーク

戸田市では、現在、新しい戸田市を表現する「ハーモナイズドマーク」が公共公益施設などで積極的に用いられ、また定着し始めており、市民にとって戸田市を表現する大切なマークとなりつつある。

「ハーモナイズドマーク」は、「交流・発展」や「人々のあたたかさ」「豊かな自然」などを表現するもので、戸田市のシティカラーとしたウォーターブルーを含む5色使いでも、単色使いでも、新しい戸田市をイメージできるデザインとなっている。

公共サインのデザインにおいても、「ハーモナイズドマーク」を取り入れていくことが望ましく、「ハーモナイズドマーク」のデザイン及びキャッチフレーズを軸とし、外観的にも、機能的にも、利用者が街に「やさしさ」を感じることができるようなデザインとする。

（ハーモナイズドマーク）

パッションレッド
 特色 DIC:157
 4色掛け合わせ M90+Y70

ヒューマンイエロー
 特色 DIC:206
 4色掛け合わせ M30+Y100

ウォーターブルー
 特色 DIC:180
 4色掛け合わせ C100+Y60

ナチュラルグリーン
 特色 DIC:173
 4色掛け合わせ C90+Y60

トラディショナルグレー
 特色 DIC:653
 4色掛け合わせ BL80
 (再現が困難な場合、スミも可)

* 公共サインに用いる場合、イメージシンボルのみの使用も可

印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。

公共サインの形体

サイン形体は、過度な装飾性は省き、機能的で、街のサイズや風景にフィットし、様々な天候、状況にも対応できるものとする。

（サイン形体の考え方）

機能性

サイズ

環境、目的に応じて変容できる

素材の適応力・安全性

天候的、物理的状況への適応力がある

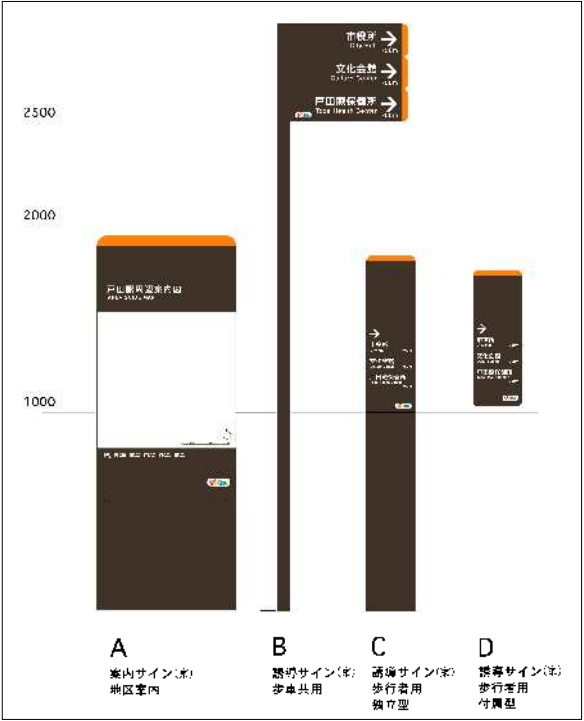
修繕能力


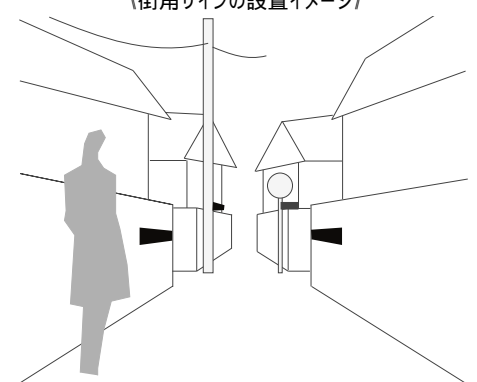
物理的にも費用面でも修繕が容易である

5 整備プログラム

1 整備プログラムの検討

公共サインのテーマ「まちづくりからまちづかいへ」を今後継続的に実践し実現化していくためには、まず、何に着手することが最も効果的か、という視点から、次の整備目的ごとの整備プログラムの検討を行う。

整備目的	整備プログラム
公共サイン環境の向上	<p>不足する案内・誘導サインの整備</p> <p>面的整備 ：市内各駅周辺、戸田公園、彩湖・道満グリーンパーク 等 1</p> <p>点的整備 ：公民館、医療保健センター、コンパル、男女共同参画センター 等 1</p> <p>《案内・誘導サインの標準デザイン》（アクセントカラーは例示のもの）</p> 
	<p>一元化されたメンテナンス体制の確立</p> <p>「公共サインガイドライン」の作成、サイン担当管理課への配布 （ 詳細は、《 基準編》の「4 メンテナンスシステム」を参照。）</p>

整備目的	整備プログラム
<p>誰にでも開かれた まちの形成</p> <p>地域コミュニティの 強化</p>	<p style="text-align: center;">街の記号化</p> <p>現在地を示す「街角サイン」の整備 1</p> <p>町会掲示板への「地区別エリアマップ」と「町会会館位置図」の設置 1</p> <p style="text-align: center;">(街角サインの標準デザイン) (アクセントカラーは例示のもの)</p>  <p style="text-align: center;">(街角サインの設置イメージ)</p> 

1 アンケート調査による

整備プログラム検討地区

〔全市域に係るもの〕

誘導サインの点的整備
(利用者アンケートから要望の多かった公共施設)
(例) 公民館、医療保健センター、コンパル、男女共同参画センター、町会会館 等

「公共サインガイドライン」の作成、サイン担当管理課への配布
(現状)
×サインの整備・メンテナンスにかかる体制が、一元化されておらず、全体が把握できていない状況にある
×公共サインの配置・デザイン・表記内容等が標準化されておらず、サインの煩雑や不足がみられる

町会掲示板への、「地区別エリアマップ」と「町会会館位置図」の設置

(特徴)
新旧住民が一緒に利用するスペースについて、利便性を増すことにより、地域コミュニティの形成に寄与する。

案内・誘導サインの面的整備
(彩湖・道満グリーンパーク)
(現状)
×入口の交差点部分に、誘導サインが一つあるのみで、ルートを確認できるサインが不足している
×入口付近に彩湖・道満グリーンパーク全体がわかる案内サインがないため、各種施設や駐車場の位置がわかりにくい

案内・誘導サインの面的整備
(北戸田駅)
(現状) 行動起点として、案内・誘導サインが充分でない

案内・誘導サインの面的整備
(戸田駅)
(現状) 行動起点として、案内・誘導サインが充分でない

景観づくり推進地区(候補地)
(例) 市役所南通り沿道地区

案内・誘導サインの面的整備
(戸田公園駅)
(現状) 行動起点として、案内・誘導サインが充分でない

案内・誘導サインの面的整備
(戸田公園)

(現状)
×戸田公園駅から戸田公園までのルートがわかりづらい
×戸田公園全体がわかる案内サインがないため、各種施設や駐車場の位置がわかりにくい

(整備効果)
景観づくり推進地区(戸田ポートコース周辺地区)において景観づくりと併せて展開することにより、相乗的な効果が期待できる

現在地を示す「街角サイン」の整備
(波及効果が期待できるエリア)

(現状)
×まち中に、現在地がわかるサインや目印がすくない

(整備効果)
景観づくり推進地区(市役所南通り沿道地区)と、利用者の多い北大通りを結ぶエリアで展開することにより、相乗的な整備効果が期待できる
北大通り沿道は、3地区(上戸田、新曽、笹目)に渡っており、アクセントカラーを地区別に色分けする場合も、効果が見えやすい

景観づくり推進地区(候補地)
(例) 戸田ポートコース周辺地区

*戸田公園には名称サインが設置されているが、戸田港船場には設置されていない。

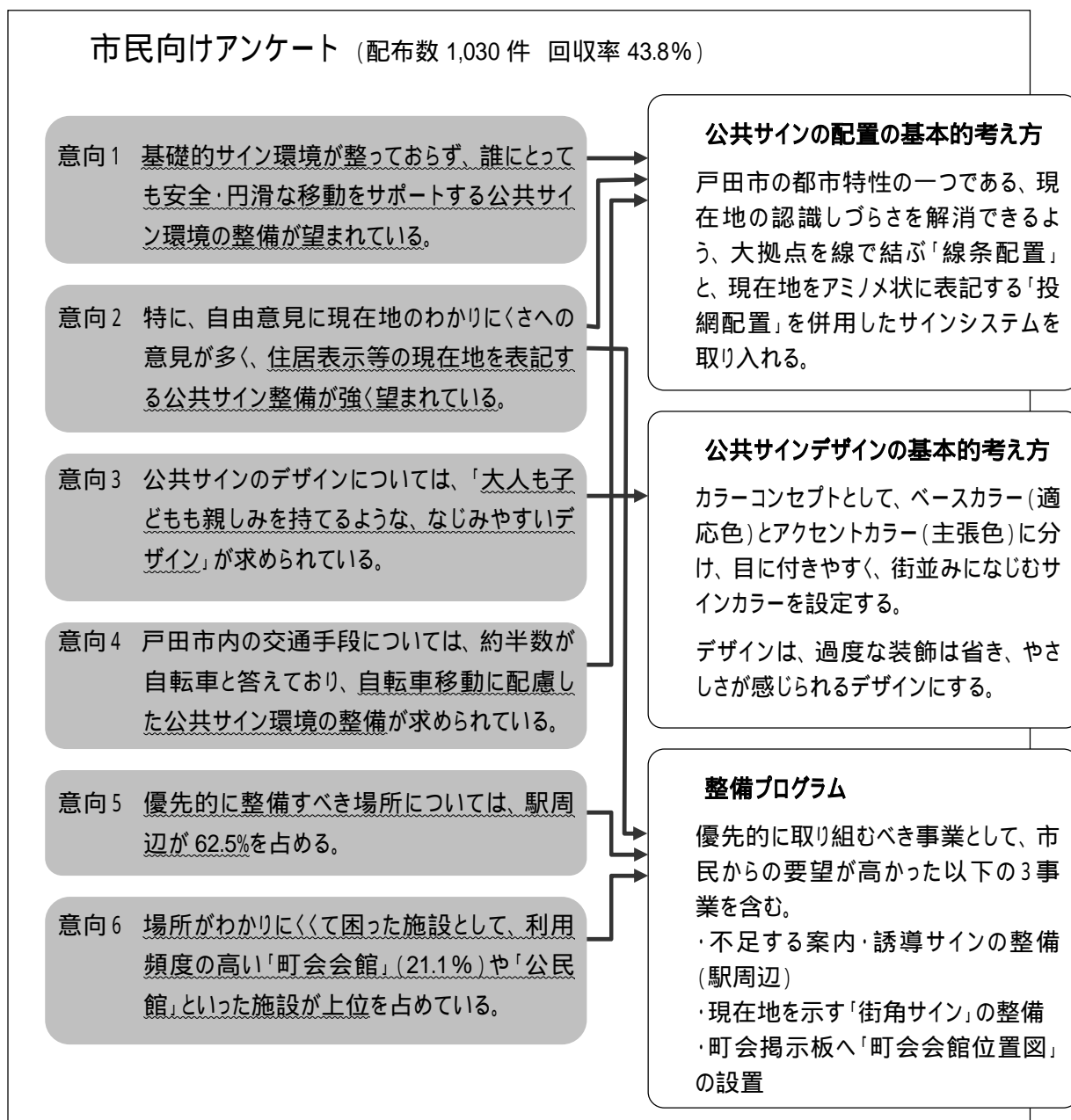
6 本計画におけるアンケート調査の位置づけ

1 本計画におけるアンケート調査の位置づけ

「住宅・産業都市＝戸田市」における公共サインのあり方を検討する上で、一番の利用者となる市民の街に対する声や将来への要望を聴くことが非常に重要となった。このため、市民、中学生を対象にアンケート調査を実施し、これに基づき、本計画の骨格の方向性を検討した。

また、今後、戸田市を「他都市へ発信」していくことを目指し、現在の戸田市がどのように見えるのかを把握するため、来訪者に対するアンケート調査も行った。

(詳細については、巻末の〈参考資料〉を参照。)



中学生向けアンケート（配布数 217 件 回収率 100%）

- 意向1 行動範囲が限られていることから、市内の公共サインに対する不満は、中学生には少ない。
- 意向2 中学生の持つ戸田のイメージを聞いたところ、「あまりイメージを持っていない」が最も多く、子どもにとって故郷になる戸田のイメージが希薄であることがわかる。
- 意向3 中学生のお気に入りの場所を聞いたところ、「学校・校庭」といった身近な生活環境にあるものと、「彩湖・道満グリーンパーク」や「荒川」「戸田公園」といった、戸田を代表する地域資源があげられている。

整備プログラム

優先的に取り組むべき事業として、中学生のお気に入りの場所の一つである「戸田公園」周辺の「不足する案内・誘導サインの整備」を含む。

来訪者向けアンケート（市役所窓口にて実施 配布回収数 27 件）

- 特色1 公共施設等にアクセスする際困ったことについて聞いたところ、「目印になるようなサインがない」という意見が多く、地形や街並みに特色がなく、現在地を認識しにくいことがわかる。
- 特色2 戸田のイメージを聞いたところ、「工場が多いまち」「公園・街路樹が多いまち」といった両極端なイメージとともに、「戸田橋花火大会」といったイベントのイメージが強いことがわかる。
- 特色3 来訪者が知っている戸田の地域資源について聞いたところ、「戸田競艇場」「戸田漕艇場」が74.1%、「戸田公園」「戸田橋花火大会」が50～60%を占めており、ここでも、戸田公園周辺及びイベントの認識度が高いことがわかる。